

いじめは絶対に許されない—いじめ防止授業—

2月1日（月）に、熊本県のスクールロイヤー活用事業の一環として、熊本市内の法律事務所から大津弁護士をお招きし、1年生を対象に「いじめ防止」授業を行ってもらいました。

授業の初めに、水の入ったコップをいじめられる人の気持ちに例えて考えてみましょうとお話しされました。

「いじめられた人の心には、少しずつ嫌な気持ちや悔しい気持ちが溜まっていきます。何気ない一言で、我慢の限界を迎え、悲惨な結果が起きてしまうかもしれません。」

この話を聞いて、これまでの自分の言動を振り返った人も多かったのではないかと思います。そしてこう続けられました。

「あなた達が、友だちの最後の一滴を落とすようなことがないように、そして、できればコップの水がたくさん溜まって苦しんでいる友だちのコップの水を減らせるようになってほしいと思っています。」



授業をされた大津弁護士

「最後の一滴を落とすことがないように、コップの水を減らせるような人になってほしい」

今回の授業を受けて、これからの自分の言動を考え、いじめのない二中にしてくれることを願っています。

海老原先生（第2代校長）頌徳碑建立

昭和29年から8年間という長きにわたり、本校の校長であられた海老原亮吉先生の頌徳碑が建立されました。

当時の教え子の皆さんを中心に建立期成会が設立され、本校の同窓会も賛同して建立が実現しました。



頌徳碑の前で記念撮影する建立期成会の皆さん

海老原先生の功績については、昨年人吉新聞に連載されていきましたので、ご存じの方もおられると思います。

石碑には、
「子等は去り行く 何を頼りて
荒きこの世の波と戦うか」
という、中学校を巣立つ生徒の行く末を案じる先生の言葉が刻まれています。

連載記事によると、生徒も保護者も来賓も涙にむせぶ卒業式での式辞の一節だそうです。

連載記事からもう一つ言葉を紹介します。

ある全校集会で生徒に向けたお話の中の言葉です。現在の二中に向けても大きな意味のある言葉だと思います。

「皆さんの只一人のほほえみでも、その人の周囲を、その人の家庭を、その人のホームルームを、学校を明るくものにする大きな原動力である。病む人のいない、憎しみのない、怠慢のない、不正のない、邪悪のないわが学園であってこそ、真のほほえみは開花するであろう。心身健やかな、希望明るい、愛情あふれる、礼節うるわしい、信念に強い、勉学に心はずむわが学園であってこそ、ほほえみは満ちるであろう。みんなほほえみ合おう。」

歴代の先生方や先輩方の意志を受け継ぎ、ほほえみの絶えない二中をつくっていきましょう。